

こえ
聲

はたち 二十歳の皆さんに聞きました 私のいいたいこと



埴 綸ノ亮さん
(祖母井)

野球が教えてくれたこと

このたび二十歳を迎え、一人の町民として社会に踏み出す節目を迎えました。これまで支えてくださった家族や地域の皆さんに心から感謝しています。私はこれまで野球を通して、努力を続けることの大切さや仲間と協力することの意味を学んできました。勝ち負けでなく、礼儀や責任感、目標に向かって挑戦し続ける姿勢は、これからの人生においても大切な財産です。今後は子どもたちがスポーツや野球に親しめる環境を町全体で守り育てていくことが重要だと感じています。また、スポーツを通じて子どもから高齢者まで気軽に体を動かせる町を作るとは、健康づくりだけでなく、人と人とのつながりを深めることになります。

私たちも地域の一員として積極的に関わり、スポーツを通じて芳賀町をさらに活気ある町にしていきたいと思います。



加藤 美空さん
(芳志戸)

芳賀町とともに歩む未来

この度、生まれ育った芳賀町で成人の日を無事に迎えることができ、大変嬉しく思います。家族をはじめ、先生方や友人、温かく見守ってくださった地域の方々、多くの皆さんに心より感謝申し上げます。

現在、私は看護師を目指して看護学校で学んでいます。将来は、私が育ったこの町で医療を支える一員になりたいと考えています。世代、年齢、立場に関わらず、誰もが安心して受けることのできる福祉や医療体制の整った町、健康寿命の長い町であってほしいと願っています。

LRTが開通し、町の様子も変化してきていると実感しています。自然が豊かなど良いところを残しつつ、町民の方々が元気でたくさんの笑顔と魅力にあふれる、未来へ向けて発展していく芳賀町であり続けることを期待しています。



宮本 翼さん
(東水沼)

まほろば

この町は私にとって、この上ない憩いの場所である。これは私が進学を重ね、町から離れる時間が増えた今だからこそ断言できる。

初めてこの感覚に気が付いたのはとある夏の日。大学が夏季休暇に入り、家でひと息ついていると、ふと外から蝉の声が聞こえてくる。それまで作品提出やレポート課題で忙しい日々を送っていた私には、中学生の頃までは当たり前と思っていた夏の風物詩が、不思議と新鮮味を帯びて感じられたのである。

「住めば都」とはよく言うが、この町にはその「都」たる魅力が十分にあると思える。他を圧倒する何かこそなくても、四季折々に移ろう自然や、町民に寄り添ったイベントなど、心身を落ちつけたい時に「帰れる場所」となってくれることこそが、この町の一番の魅力なのではないかと私は感じる。